

埼玉退教 だより

第 9 号

発行日 2026/2/20
発行者 石川博 編集責任者 山田正美
発行元 330-0062 さいたま市浦和区
仲町 3-13-10 ヤギシタビル 4F
e-mail:yamadamasami015@gmail.com

第51回
衆院選

木を見て森を見ず

石川博（会長）

政見放送・街頭演説は何を語ったか

選挙期間中、ラジオやテレビで政見放送が頻繁にありました。名簿届出政党が作成したものがそのまま放送される仕組みです。10分間あればかなりの内容を取り上げることが出来ますが、満遍なくという訳にはいきません。各党とも投票に繋がりやすいテーマに絞っていました。しかも毎回同じ内容なので記憶に残り、党のイメージ作りに有効でした。放送に限らず街頭演説でも同様です。この場合、取り上げられるテーマが森の木です。

前回の衆院選で「手取りを増やす」というテーマがヒットした情性で「もっと手取りを増やす」とした国民民主党は伸び悩みました。具体的に「社会保険料の引き下げ」をテーマに手取りを増やすとしたチームみらいが躍進しました。都心・無党派層を中心に得票したとのことです。若者や現役世代がターゲットでしょう。なお、チームみらいは消費税の減税や廃止を掲げず、AIなどのテクノロジーを活用する社会を目指すことを明確に

していました。

「自維 300 議席超うかがう・中道ふるわず半減も」という新聞見出し(2/2 朝日)はショックでした。開票結果は、与党 352、野党 109、無所属 4 です。埼玉では県内の 16 小選挙区全部で自民党の候補者が勝利を収めました。高市早苗自民党総裁の掲げる経済成長・防衛力強化・地方活性化といった政治理念を象徴する「日本列島を強く豊かに」というキャッチフレーズと急ごしらえの中道改革連合の「生活者ファースト」・「くらしを真ん中へ!」の対決だったのででしょうか。

安心して暮らせる社会こそ

投開票の翌朝、神野直彦さん(財政学)は今回の衆院選について「木を見て森を見ず」と評していました。安心して暮らせる社会を森に例えているようです。人間の尊厳と共同体の再生を軸にした社会像は人々が互いに信頼し時間をかけて対話することによって実現します。社会保障が重要な要素であることは言うまでもありません。長い道のりでも・・

全国の仲間と連帯しよう

選挙結果は“民意”のすべてではない。こんな時こそ集会に参加しましょう!

『憲法と平和の危機』いま私たちは何をすべきか

日時 3月3日(火) 18:30~
場所 浦和コミュニティーセンター第15集会室
講師 伊藤千尋氏(国際ジャーナリスト)
主催 戦争をさせない1000人委員会
参加費 800円

『退職者連合ジェンダー平等学習会』

日時 3月4日(水) 13時30分~16時
場所 連合会館2階(千代田線新御茶ノ水下車)
講演 「女性議員はへんな女なのか」辻元清美参院議員
主催 日本退職者連合

止めよう原発 3.7 全国集会

日時 3月7日(土) 13:00~ステージ開会
会場 代々木公園B地区
主催 脱原発全国集会実行委員会

平和憲法だけは死守を 加藤富士雄 (高校)

歴史的な大敗！高市ブームが起きてしまった。高市早苗の本質を見ないで、女性初の首相・政治家にしては分かりやすい言葉などで若者を中心に人気があった。「中道」結成の中身にも問題があった。とくに原発や安全保障の問題で公明党に気を使いすぎた。もともと立憲支持者でも中道に投票しなかった人もいたと思う。

これだけ負ければかえってスッキリする。平和憲法だけは死守する運動を展開して、次の選挙を待ちたい。

今後の政策を注視しよう 堀込雅代 (比企)

全く予想もできなかった今回の衆議院議員選挙の結果に啞然としている。これからの日本はどうなるのだろうか？防衛費の拡大、憲法改正(改悪)。軍国主義国家に突き進まなければよいがと不安が募る。高市政権の政策を注視していきたいと思う。

ファシズムの責任は国民 関口賢 (高校)

戦前の日本国民は天皇主権の憲法下、独裁者を選ぶ自由さえ与えられず、軍部の言いなりに動かされた。だから国民は敗戦の責任を感じる必要がなかった。でも、今回は国民主権の憲法下で高市早苗の独裁を認めてしまった。その責任は国民全体が負わねばならない。(日本国民も「主体的」にファシストを選べるまで「進歩」したのかな?)

でも、ファシズム下でこそ抵抗運動が未来に通じる光となる。高市はスパイ防止法制定、国旗損壊罪創設に着手するだろう。あきらめずに闘うだけだ

右に行かない勢力を 倉持光好 (南)

今回の選挙後、「ウーム」となってしまった。支援していた候補も落選。少し前に『「右派市民」と日本政治」松谷満(朝日新書)を読んだが、著者は、「一緒にいることをあきらめない」「半端者どうし、だから対話の可能性はある」「わからなさや迷いを許容する」等、語っていた。今後、「右派」と言われる人たちをきちんと捉

え直し、右に行かない勢力を大きくするために尽力したいと改めて思っている。

日本の民主主義は 秋山博史 (高校)

自民党単独過半数超を見て、日本の民主主義の程度はこんなものかと思った。裏金議員の重複立候補を認めて、何が解党的出直しか。有権者も「政治とカネ」の問題を忘れてしまったのか。

ネバーギブアップ 武井誠 (入間)

なぜ、こういう結果となったのか、様々な方たちの見解をお聞きしています。あらためてまとまった形で原稿を掲載させていただけたらと思います。ともかくも、ネバギバ(never give up)です。上の世代から引き継ぐ「教え子を再び戦場に送るな」のスロガン、次の世代を戦場に送らないために今、何をすべきか、考え、行動していきます。

高市政権による暴挙を糾弾！ 丸山道雄 (児玉)

円安で輸出産業は“ホクホク”だが、インフレで生活困窮者は追いつめられている。史上空前の利益を手に行っているのは、独占資本家でしかない。非正規や解雇された労働者、介護労働者など弱者には、余りに冷淡だ。「経済安保」で、高市政権は、所得税に防衛費を盛り込んだ。半導体・原発・レアメタル開発などに莫大な国家資金を投じたが、債務残高は1300兆円。「積極興政」の内実は、長期金利の上昇で危機的である。日米軍事同盟の飛躍的強化でトランプの要請＝支持をうけ、軍事費は11兆円を超え、軍需産業・武器輸出・軍事強国づくりに拍車がかかっている。

ロシアのウクライナ侵略と核大国の米中対立で暗黒の世界に突入している今、対中国を想定した戦争で“前線に立つ”とトランプに約束した高市総理だが、一体誰が犠牲になり、誰が責任をとるといふのだろうか！国策として原発再稼働に舵を切ったが、3.11の責任も、かの大戦の責任も取ろうとしない政府権力者に怒りをぶつけたい。彼らの横暴を、再び三度、許してならない。

選挙結果に思う

会員の皆さんもぜひ、今回の選挙結果へのご意見を投稿してください！

定年マイウェイ

辺野古座り込みに参加して、もう10年

福祉系 NPO 活動

4年前に脊柱管狭窄症で入院し、一年前から今度は股関節が痛くなって……。おっと、こんな話をしている誌面の余裕はなかったのだ。簡単に現在の生活をお知らせしますね。地元の福祉系 NPO で役員兼職員として活動しています。主な仕事は高齢者・障害者の車での移動支援、特に通院サポートが多いです。そんな合間をくぐり抜け、沖縄・辺野古の新基地建設反対の座り込みに参加しています。十年前から行っているのだから、今ではゲート前テントの準スタッフ扱いで早朝からの準備も手伝い、去年は5回出かけました。これまでの活動から是非言っておきたいことが二点あります。

今のままでは安心して老いることはできない

障害者サービスではこれまでの運動の成果もあって、比較的充実しています。しかし介護保険法では移動支援のような公的サービスはないんです。ですから通院・買い物とかの欠かせない外出は自助努力。老いるということは誰でも中途障害者になりうるということなのに。戦争準備より、こうした福祉にこそ予算を使え（またいつものクセが出てしまった）。私たちはもっと怒るべきでしょう。

沖縄・辺野古の現実から今の日本が見えてくる

コロナ禍前のある日、ゲート前トラック搬入反対行動屋の部が終わって近くの公園でおにぎりを食べていました。するとあのオスプレイが低空飛行でそれも下に荷物を吊り下げてやってきたのです。降りたり、登ったりなので荷物運搬訓練でしょうか。この訓練場のすぐ近くには沖縄高等専門学校があるんですよ。これがアメリカ本国ならとても許されることではないはずですが、このことだけでも日本は米国の植民地と変わらないという声には素直にならずいてしまいます。

半田清雄（高校支部）

辺野古新基地建設の現状は、昨年末から、いよいよ大浦湾への土砂投入を始めたと大々的に報道されました。しかし比較的浅く、地盤の安定している所に投入しているだけで、巨大な六隻の杭打ち機はほとんど稼働しておらず、やっている感を出すための広告塔のようです。

「建設ありき」なので沖縄防衛局を中心とした様々な脱法行為がまかり通り、予算も湯水のように税金が投入され、周辺の自然はいとも簡単に壊され続けています。（ちなみに辺野古関連警備費だけで、一日 2200 万円といわれている）

本土が問われることは

現地に来ると沖縄に負の部分の押し付け「本土」には見えなくしている差別構造がリアルに見えてきます。他人事のようにしか思っていない私たち「本土」の人間の認識こそ問われなければならないと思っています。

また機会があったら詳しい現地レポートを出せたらいいですね。さてそろそろ、次の現地行動の準備をしなければ……



辺野古ゲート前テントで 去年は5回出かけた

「学校統廃合」に待った!

岡野 勉 (入間支部)

埼玉県の西部地区に位置する毛呂山（もろやま）町。人口3万2000人で、町立の小学校が4校、中学校が2校ある。町は10年ほど前から学校の統廃合を準備し、2018年8月には「未来を拓く人づくり（小中一貫教育）」プロジェクト基本方針を決定、最も望ましい学校環境は4小学校を全廃し、中学校2校に施設一体型の小中一貫校として統合することとした。

この動きは国が超少子高齢化の到来に全国の自治体に策定させた公共施設等総合管理計画に合致する。町は「今後40年間に町全体の公共施設を25%削減する」ことを打ち出した。

これに沿って、町は公共施設の延床面積の53.8%を占める学校をターゲットに、急ピッチで公共施設の削減を進めている。

1700件の意見が力に！

学校統廃合表明以降、町内は賛否が2分。この7年間は一進一退の攻防が続けられている。現時点では小学校を中学校敷地内に統合するための「小中学校設置条例（住所を中学校に移す）」の議会提出を迎え、町と議会は緊張状態に置かれている。町はこの状況にあって、昨年（2024年）の10月に保護者アンケートを実施、保護者の圧倒的な支持、賛意を取り付ける狙いがあった。

アンケート結果に町は「学校統廃合に理解できる」との回答に76.5%を得たと自信をのぞかせている。しかし、「子を思う」親の力は強かった。

町に負けてはいない。表向きは賛成だが、何とアンケートのコメント欄に1700件にも及ぶ、要望、不安、意見が記されていた。以下の通りで要約すると。

①小中は別々が良い！体格差と何よりいじめ、いたずらが心配だ。②今ある小学校を大切に使う。③教員の減少が心配だ。④通学路3Kmは厳しい。⑤子ども達の声を聞くべき。



町立小学校すべてが「小中一貫校」へ統廃合されようとしている

以上の意見がどれだけ、保護者の意見を言い当てているか。保護者は明確に「学校統廃合」に異議申し立てをしている。

住民の声を聞こう！ 6カ所で意見交換会

この状況下において私達は改めて町民、保護者、学校の当事者である児童生徒の意見を！本音を聞かせて頂こうとの声が上がった。よく考えてみると住民同士の意見交換が不足していたことの反省である。そして昨年11月中旬からほぼ1カ月間で6回の住民意見交換会を開催した。

参加者は毎回10人から15人だったが、小学生と中学生が4人ほど参加した会もあった。「体格が違う小中学生ではいじめなどが心配だ」「財政難というならなぜ新たに校舎を増築するのか」などの意見が出された。直接の当事者である子どもたちの意見を聞かないで今後の学校、学び舎を決めていいのか、意見表明（権）の大切さを強く感じた。

毛呂山町は埼玉県内63自治体において完全失業率が6.05%とワーストワンだ。生活保護率も県内で2.23%と最も高い。

こうした現状にあって今、毛呂山の子もたちに第一に求められているのは一人ひとりの子どもにも寄り添い、少人数学級で丁寧な教育を施すことだ。町が目指す切磋琢磨の小中一体型一貫校ではますます教育格差が拡大し、不登校の児童や生徒が確実に増えることは目に見えている。

学校統廃合の白紙撤回を！

いま一つは教員が不足していることだ。日本の教員は世界一労働時間が長い「ブラック職場」の代名詞になっている。

ところが、毛呂山町は教員を増やすどころか減らそうとしている。アンケートでも85%の保護者が「統廃合で先生が減ることは問題」と回答している。私の試算では川角中学校区の小中一体型の学校統廃合



町民意見交換会では活発な討議が交わされた

で県費教職員が17人、町費学校職員が14人、合計31人が削減される。何と小学校4校の全教職員の26.3%の減員だ。この事は確実に教育環境、町の教育力はマイナスになる。

なお、町はこの指摘に対して「町全体の教員数は減るが、1校あたりの教員数は増えます」と回答している。実はこの詭弁ともいえる回答が全国の教育現場にはびこり、教職員を減らし、生命と健康を奪うブラック学校を温存している。この点はしっかり対峙して行きたい。

このように保護者アンケートや意見交換会の結果は明らかに統廃合反対が多数だ。なお、2026年早々には「毛呂山町小中学校設置条例」が議会に提出される。気になるのは住民の一部には「もう学校統廃合は決まったことでしょう」という思い込みだ。そういう事実はない。私たちは、地域の宝、小学校を守り、毛呂山町住民の総意と総力で「毛呂山町学校編成計画」を白紙撤回させる決意だ。（毛呂山町議会議員）

2/13 政策・制度要求実現院内集会

選挙直後の反省会？の雰囲気

本集会は日退連が毎年行うもので、参議院議員会館には日教組、自治労、JP他、全国からOB・OG 300人余りの仲間が参加した。衆院選直後であり反省会のような集会となった。

「時代の空気に飲み込まれた。中道の種火を守る—野田中道共同代表」「公明党支持者は心底から中道の理念に共鳴していた—斎藤中道共同代表」「参議院は立民継続。次の地方・国政選挙に向け、全国の意見を集約する—水岡立民代表」「今までの常識が通用しない選挙、選挙の怖さを理解できない人が大量参加—川合国民幹事長代行」「『戦争か平和か』が争点だったと思う。伝えきれなかったことを反省—福島社民党首」「期待に応える責任を自覚。中道結集は今後重要な意味を持つ—宮崎公明労働局長」。そして全政党が予算編成健全化、雇用改善、子育て支援などの14要求項目について賛同を表明。

野田那智子会長は主催者挨拶で「民主主義に水を」という尾崎行雄の言葉を引用しつつ「花は咲くと信じ元氣出そう」と訴えた。各政党に平等に拍手する参加者は「Ladies and gentlemen」だなあと思った（ほめてません）。

武井 誠（入間支部）

2/10「福島被ばく訴訟」(元町

長井戸川裁判)控訴審行われる

「井戸川裁判」は昨年7月30日、地裁判決を不服として、控訴、闘いの場は本年より東京高裁へ移されました。2月10日は控訴審第一回審理が東京高裁第101号法廷で開かれました。今後「井戸川裁判を支える会」は法廷闘争を支援していきます。

「共に生きる」とは何か

安田菜津紀

ヘイトにNO! 全国キャンペーン

鳥井一平

衆院選の自民党圧勝の衝撃が
さめやらぬ2月11日、日本教
育会館で「建国の日を考える集
会」が開催された。圧倒的な権
力を手にした高市政権に対し
て、どのように対抗していく
か、私たちの決意を固める場
ともなった。



安井菜津紀氏

講師は国際フォトジャーナリストでコメンテーター
としても活躍する安田奈津紀氏。イスラエルによるガ
ザ虐殺を取材し、レイシズムの実態を訴えた。「ガザ
紛争は2023年10月のハマスの軍事侵攻から始ま
ったわけではない。それまでガザは「天井のない牢
獄」と言われ出入りは厳しく制限、失業率は50%、
どんなに努力しても人間らしい生活ができない状況に
追い込まれていたことを忘れてはいけない。イスラエ
ルではパレスチナ人は存在しないことになっている。
虐殺に抗議する市民には容赦ない弾圧、脅迫が襲いか
かる。しかし他人ごとではない。川崎市在日コリアン

へのヘイトスピーチは、市議会全会一致でヘイト規制
条例が施行されたが、攻撃は今、埼玉の川口市へ向け
られている。ヘイトスピーチは深刻な被害をもたらす
とともに暴力を誘発する。近年では選挙演説すらヘイ
トに近づいている。」

NPO 移住連共同代表の
鳥井一平氏は2月から実施
する「ヘイトにNO! 全国
キャンペーン」への参加協
力を呼び掛けた。参政党が
議席を急増させ、「外国人
は優遇されている」など根
拠のないデマに基づき、高
市政権は外国人規制強化を打ち出している。全国キャン
ペーンでは各地域でのイベント、集会を実施、共に
生きる豊かさを実感できるプログラムを实践、またフ
ァクトチェック活動を広げていく。6月には署名と要
請書を政府、各政党に提出し、中央行動も予定してい
る。



鳥井一平氏

山田正美（高校支部）

1月27日に「至急」というハンコが押された
一枚の回覧板が回ってきた。そこには「入場券が
なくても投票できます。」と大きな太い文字が印
刷されてあった。高市首相のあまりの突然の衆議
院解散により行政（選挙管理委員会）側の事
務処理が間に合わないための苦肉の策である。
こんなことは今までに一度も経験したことが
ない。こんな短期間で行政側が対応できるは
ずがない。すべての責任は高市首相の「自己都合
解散」にある。怒りにも似た感情が湧いてきた。
▼雪国のこと受験生のことなど全く考慮してい
ないのであろう。そして、465人も議員が解雇
されることも。解散に関しては、首相の専権事項
などという、もっともらしい発言がたびたび与党



議員からなされ、マスコミもこのことに対して全
くといってよいほど批判せず当然のことのように
報道している。衆議院の解散は首相の専権事項で
あるなどと憲法のどこにも書かれていないのであ
る▼また、解散について首相が嘘をついたの
もこの国では激しい批判にさらされることす
らない。人は嘘をついてはいけないのだ（1
月28日記）▼選挙結果に茫然自失。この
三日間何も手がつかなかった。9条改憲の国民投
票が現実のものとなるかも知れない。時間はかか
るかも知れないが、気持ちを切り替えて自分に出
来ることを今までより一歩でも多くやるしかない
のかなと思っている。（2月11日記）（M）